

●2年生「古典B」の授業で、『更級日記』の冒頭部分を題材とした全8時間の単元の7時間目。授業の前半は前時までに班ごとに作成した本文の紙芝居を発表し、後半は個人で作者の心情について理解を深めていった。(P.23に単元の指導計画を掲載)

前時から少し時間が空いたため、授業の冒頭、先生は「主人公は誰だった?」「門出の時、主人公は何をした?」といった質問をしながら、前時までに学習した内容を振り返った。その上で、「門出の時に泣いたのは、ただ悲しかったことだけが原因なのかな。今日はその点を深めて考えていきましょう」と、本時の目標を伝えた。

登場人物の言動や情景に  
込められた心情を、  
深く理解できる資質・能力を養う

米林先生のアクティブ・ラーニング

登場人物の言動に込められた心情を  
読み取り、豊かな感性を養ってほしい

米林舞子先生は、生徒が活動し、自ら考えるアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業に初任時から取り組んできた。きっかけは、初任校での先輩教師の一言だった。「失敗が許されるのは3年目まで。それまでは何があっても全力でフォローするから、自分がよいと思うこ



石川県立松任高校

米林舞子 まっとう よねばやし・まいこ

教職歴10年。同校に赴任して2年目。2学年担任。進路指導課。教務課基礎学力定着推進担当。国語科担当。初任時からアクティブ・ラーニングを実践している。

石川県立松任高校

◎校訓は「明き心に」「深き心に」「堅き心に」。2016年度から文部科学省「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」(指定期間3年)の指定を受け、ICTを活用した授業改善などを推進している。

◎設立 1963(昭和38)年

◎形態 全日制/普通科・総合学科/共学

◎生徒数 1学年約200人

◎2017年度進路実績(現役のみ)

国公立大は、富山大、富山県立大に2人が合格。私立大は、専修大、金沢学院大、金沢工業大、北陸大、中京大などに延べ51人が合格。短大、専門学校進学67人。就職61人。

◎URL

<http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~mattfh/NC2/htdocs/>

\*プロフィールは2018年3月時点のものです



各班の発表が終わる度に、生徒は「聞きやすさ」「分かりやすさ」などを評価シートに記入。先生は発表に対して、「場面設定が上手でした」「門出の意味をきちんと理解していたね」といった前向きなコメントをした。評価と並行して、授業後半の活動の準備として、先生が各班の発表で出てきたキーワードを取り上げ、教室の後ろの黒板に本文の構造図を描いた。

前時までに各班で作成した紙芝居を、1班約3分間ずつで発表。タブレットに取り込んでおいた紙芝居をプロジェクターで投影し、自分が作成を担当した場面を順番に発表した。分かりやすく伝わる台本や絵にするためには、主人公の心情を深く考えなければならず、『更級日記』に対する理解が深まると、生徒は言う。

とは何でもやりなさい」。初任校は地域からの期待が大きい進学校だったが、その言葉があったからこそ、実績を出すプレッシャーにも押し潰されずに、自分の授業スタイルを磨くことができたと言う。

今回の授業は、2年生普通科理系クラスの「古典B」で、全8時間の『更級日記』(菅原孝標女すがわらのたかすけのむすめ)の単元だ。この作品は、関東から上京した主人公が、父の死や結婚、官仕えなど自身の経験をつづった回想録で、授業で扱うのは、関東での生活から京への門出までを描いた冒頭部分である。1時間目は、本文を読み解くための知識を学んだ。「継母」の意味を知らない生徒もいるため、主人公の継母とはどのような存在なのか、『シンデレラ』との比較などを通して考えさせた。そして、2〜4時間目は、場面ごとの音読と現代語訳をしながら、「主人公はなぜ薬師仏を造ったのか」「なぜ早く京に上りたいと思ったのか」などの問いを設け、班で話し合わせた。

「現代語訳をさせるだけでは、生徒の集中力は続きません。生徒が関心を持ち続け、理解を深められるよう、1場面ごとに現代語訳のどこに答えが隠れているのかを問いかけました」

5・6時間目は、主人公の心情理解を深めるために、5つの班に分かれて、『更級日記』の紙芝居を作成した。本文を班の人数分の場面に分け、各自が担当する場面の絵を描き、小学生にも理解できる台本を考える。そして、7時間目の本時に、完成した紙芝居を発表。ほかの班の

発表も聞いた上で、門出における主人公の涙の理由について各自で考え、400字にまとめる。上京し、憧れの『源氏物語』に出合える期待と、愛着ある場所や信仰する薬師仏から離れなければならない悲しさが、主人公の心をかき乱していることに気づかせるのがねらいだ。解説は8時間目に行く。

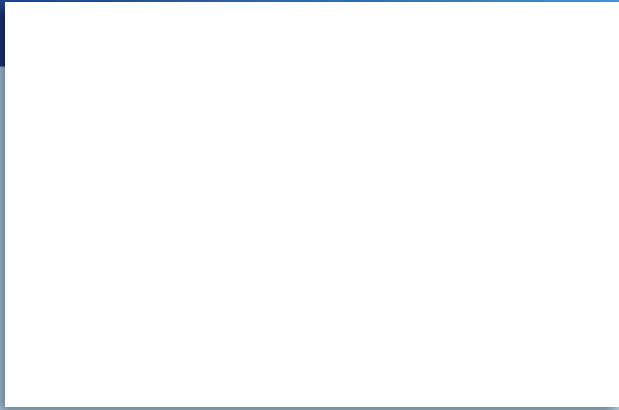
「今の生徒は、よいことも悪いことも『やばい』の一言で済ませてしまいます。現代語訳が通り済んだこの段階では、それだけで答えが分かるような発問はせず、主人公の言動や情景描写から心の乱れや葛藤を読み取り、日本人らしい豊かな感性と語彙力を身につけてほしいと考えました」

#### 思考の活性化・深化への配慮

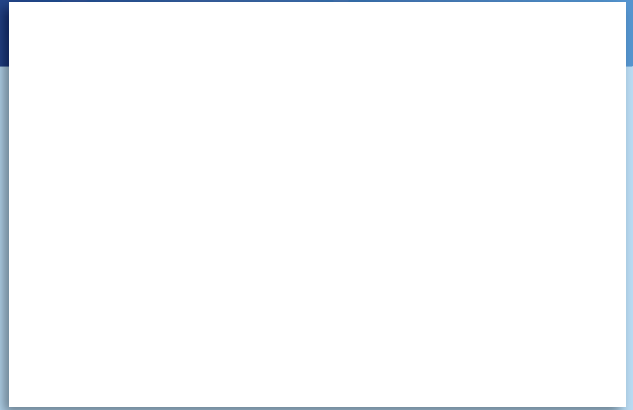
### 生徒が自分事として 本文の内容を捉えられるよう工夫

米林先生は、目の前の生徒の気質や能力、教材に応じて活動に幅を持たせている。今回は、デジタルで物事を捉えることに慣れている生徒たちに合わせて紙芝居を用いることにした。

「今回の問いは、本文に直接的には表れていない主人公の心情に迫るものです。言葉だけの話し合いでは、生徒間で理解にずれが生じるかもしれないと思います。そこで、絵を描いて本文の内容を再解釈させることで、生徒同士で考えを共有でき、より深い読み込みにつながると



各自、主人公の涙の理由を400字でワークシートにまとめる。先生は、生徒からの質問に対して全員に聞こえるように回答し、ヒントを与えた。生徒の記述からは、「都に行けるうれしさと故郷を離れる悲しさが入り乱れていた」など、主人公の心情をより深く理解している様子が見て取れた。時間内に書き切れなかった生徒は、放課後までに書き上げて提出した。



各班の発表も踏まえて、生徒個々に主人公の涙の意味を考える。まず、「涙の理由」について班ごとに話し合わせた後、後ろの黒板に描いた構造図を基に、先生が解説した。「主人公が住んでいた田舎はどんな場所だった?」「主人公が家を振り返った時、何が見えた?」などと問いかけながら、主人公が置かれた環境や、そこから分かる主人公の心情を整理していく。

考えました」

紙芝居の作成過程では、牛車を描くために古語辞典を調べるなど、より分かりやすい紙芝居とするために工夫する生徒の姿も見られた。

また、生徒が古文を身近に感じられる工夫もしている。今回は、主人公が故郷に寄せる複雑な思いを、生徒が卒業時に母校に感じるであろう思いと重ね合わせて解説した。

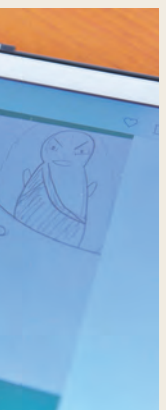
「窮屈であると同時に愛着のある場所でもある」という対比の構造は、1年後に卒業を控えた生徒たちが高校に感じる気持ちと重なる部分が多いと思います。生徒が共感できる視点や切り口をできるだけ盛り込むことで、自分事として古典文学の世界に向き合えるようにしました」

#### 場づくりへの配慮

### 間違っても大丈夫という クラスの雰囲気をつくる

活動を活性化させるために、米林先生は、間違ってもよいという雰囲気づくりに努めている。まず、班のメンバーは活動ごとに生徒たち自身で決めさせるが、1班5〜7人として、仲のよい友人だけとらないようにしている。ほかに「2人だけメンバーを変える」「男女を同じ人数にする」などと指示を変えることで、メンバーが流動的になるよう工夫している。

「生徒たち自身に班づくりをさせて、社会性を養うとともに、クラスメートの知らない一面



生徒が作成した紙芝居の一場面。担当するのは一場面だが、前後の場面とのつながりも踏まえてその場面を的確に表すためには、本文全体を理解する必要がある。

を知り、信頼関係を育むことをねらいとしています。次第に、間違っても大丈夫、分からないことはメンバーに聞いてもよいといった意識が醸成されていきます」

年度当初こそ「別の子と一緒がよかった」などと言う生徒がいたものの、1学期が終わる頃には、誰と組んでもきちんと話し合いができる雰囲気になったと言う。

#### 成果と課題

### 書くことで、自分の考えを整理し、 思考力を養ってほしい

成果の1つは、古典文学に興味を持つ生徒が増えていることだ。「この話の続きはどうなるんですか」と、米林先生に質問する生徒が1年次よりも増えたと言う。

「日本や中国の古典には、人生の岐路に立った



## 単元の指導計画

【教科・科目】国語・古典B 【分野・単元】古文・日記 【テーマ・作品】『更級日記』より門出 【設定時数】全8時間の中の7時間目  
 【単元目標】登場人物の心情や当時の様子を想像することで、古典の世界に親しむ態度を養う

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	音読。「継母」とはどのような存在か。	・主人公と「継母」の関係を理解する【知識】	①『シンデレラ』を用いて、「継母」について理解し、主人公にとっての義理の母であることを確認する。②本文を音読し、登場人物を把握する。	【主体的な学び】登場人物の人間関係を理解させ、本文への関心を引き出す。【深い学び】『シンデレラ』におけるシンデレラと継母の関係と、『更級日記』における主人公と継母の関係を比較させ、本文読解の鍵である「物語」に着目させる。	
2	音読。主人公「孝標女」はなぜ「薬師仏」を造ったのか。	・主人公が「薬師仏」を造るに至った心情を読み取り、説明する【思考力・表現力】	①本文の現代語訳をすることで、設問の解答が導き出せることを自ら発見する。②班で協力して現代語訳や解答を作成する。③周辺人物の行動によって主人公の心情がどのように変化していったのかを捉えて、解答を作成する。		
3	音読。「京に疾く上げ給ひて」と思ったのはなぜか。	・本文から「京」と上総の国の違いを読み取り、主人公が上京したい理由を説明する【思考力・表現力】	①本文の現代語訳をすることで、設問の解答が導き出せることを自ら発見する。②班で協力して現代語訳や解答を作成。③本文の構造比較から「京」と上総の国の違いを読み取る。	【対話的な学び】班で協力して活動できているか。【深い学び】班で解決できない時に、助言をする。	
4	音読。「孝標女」はなぜ「うち泣」いたのか。	・主人公が「うち泣」いた理由を本文から読み取り、説明する【思考力・表現力】	①本文の現代語訳をすることで、設問の解答が導き出せることを自ら発見する。②班で協力して現代語訳や解答を作成する。③班で相談し、字数制限に合わせて解答を作成する。		
5	アウトプット。紙芝居の作成①	・本文の内容を紙芝居にするためにコマ割りをする【協働性】 ・現代語訳を小学生にも理解できる言葉に変換する【協働性】	①班の人数で本文のコマ割りをする。②絵の統一を図り、その後、各自で担当の箇所の絵と紙芝居原稿を考える。	【対話的な学び】班で意見交換しながら、活動を進めているか。【深い学び】各班を回り、相談に乗る。	
6	アウトプット。紙芝居の作成②	・本文の内容を紙芝居に起こす【協働性】 ・重要古語を分かりやすく台本に組み込む【協働性】	①紙芝居の台本を班内で読み合わせ、微調整を行う。②班ごとにリハーサルを行う。	【対話的な学び】班の中で各自の役割に責任を持って活動できているか。【深い学び】各班を回り、助言する。	・紙芝居の台本
7	紙芝居の発表と深化学習	・聞き手に伝わりやすい工夫をして発表する【表現力】 ・「門出」に際する主人公の複雑な心境を文構造から探る【技能】	〈班活動〉紙芝居の発表を行い、評価シートに記入する。 〈個の活動〉発展問題：「門出」の際の涙の原因は悲しかったことだけなのか。	【対話的な学び】聞く姿勢や発表の姿勢を指導する。【深い学び】紙芝居の発表を基に、本文の構造について板書し、「主人公にとっての家とはどのような場所であったのか」を問いかけ、本文に隠された心情を考えるきっかけを与える。	・他者評価シート ・自己評価シート
8	まとめ	・「門出」に際する主人公の複雑な心境を説明する【思考力・判断力・表現力】	発展問題の解答について、生徒の解答を全員で共有しながら、文構造を踏まえているか確認し、解答を書き直す。	【主体的な学び】【対話的な学び】論理的に解答を書けるよう、他者の解答を共有・検討する。【深い学び】本文に表れてこない登場人物の心情を、文構造の理解を根拠に導き出せることを伝える。	・ワークシート

\*米林先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成

生徒の声

**今村玲太さん** 米林先生の授業は、自分で調べたり、友人と協力したりしながら課題に取り組むので、理解が深まりやすいと感じています。特に今回は、本文に書かれている世界を想像しながら紙芝居を作ったので、本文の流れがすっかり頭に入り、主人公の心情もより深く理解できました。

**漆原菜美さん** 難しい課題も、班で話し合いながら取り組めるので、安心して授業に臨んでいます。また、同じテーマで話し合っている点も、自分と違う意見が出てくる点も刺激的です。今日の発表では、ほかの班の紙芝居を見ることで、自分たちとは違う視点や表現方法があることが分かり、もっと伝わりやすくするためにどうすればよいのかを考える機会になりました。

時に心の支えになる一節があります。生徒たちが大人になった時、高校時代に学んだことを思い出して古典を手にとったり、自分の子どもに語り聞かせたりすることができるようになっていてほしいと思っています」

一方、課題は書く力の向上だ。今回の課題では、指定字数いっぱい書いた生徒がいる一方、200字にも満たない生徒もいた。

「書くことで、自分の考えを整理することは、思考力を養う上で非常に有効な方法です。書くことに前向きになれるようにするためには、どのような活動が必要なのか、引き続き模索していきたいと思っています」